

令和4年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	市民参画による道路等パブリック空間の有効活用検討事業		評価欄 B
協働事業者	NPO 法人セカンドリーグ茨城	市担当課	泉町周辺地区開発事務所
事業の概要	<p>本事業は、まちを体験するイベントやワークショップ等を通し、泉町のパブリック空間活用の方策等を計画段階から市民協働により検討を進める。事業運営にも、市民の参画を促すことで、市民の地元に対する愛着を育み、持続的で魅力的なまちの形成につなげていくことを目的としている。</p> <p>令和4年度は、水戸芸術館と新市民会館を通る幹線市道4号線及び歩道にてMitori0 みちあそび&ファーマーズマーケットを開催し、約700人が来場した。人工芝を敷いて椅子等を用意し、Tシャツアート展や道端書道、道端図書館、昔あそびコーナー等を設け、様々な人の居場所や交流場所となる空間を創出した。イベント当日には、茨城大学の協力を受け、来場者38人にアンケートを行った。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、水戸の新しいスポットであるMitori0を活用し、市民が集まり賑わうようなイベントを市民主体で開催した。当日は、天候に恵まれず残念であったが、新市民会館の開館を控えるMitori0の利用事例をつくることができ、今後の可能性を広げるイベントになった。</p> <p>実施したイベントについては、開催時間が3時間というの短いように感じる。また、悪天候により当初実施を予定していた企画が十分に実行されなかったという点から、1度のワークショップだけではなく、イベントやワークショップを再度開催するなど、事業目的を達成するための更なる方策に取り組むことも必要であったと感じた。</p> <p>大学生が実施したアンケートに関しては、回収率が低く、回収方法に改善の余地があると考えられる。アンケートの回収ボックスを設ける等、回答の手間を最小限に抑えて幅広い層から意見を得ることで、より良いイベントへ繋げていただきたい。</p> <p>令和5年度が協働事業3年目となることを踏まえ、今後も市と連携を図りながら、来場者のニーズを捉えた企画が実現されるよう期待している。新市民会館の開館を皮切りに多様な市民のアイデアを事業に反映して、Mitori0周辺のまちづくりに寄与していただきたい。</p>		

令和4年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	介護助手養成 ちいすけ水戸		評価欄 A
協働事業者	NPO 法人ちいきの学校	市担当課	介護保険課
事業の概要	<p>本事業は、介護職が専門職の高い業務に専念できるよう、アクティブシニア層を介護職の周辺業務（話し相手や軽作業等）を担う「介護助手」として育成し、就労を促して介護サービスの質の向上につなげる。また、アクティブシニアが社会参加することで、心身の健康維持を図り、「地域で支えるいきいき健康と安心長寿」の実現をサポートすることを目的としている。</p> <p>令和4年度は、介護助手の養成を目的として「ちいすけ水戸」講座を年5回実施した。合計77名が参加し、介護助手として7名が就労した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、元気なシニアを介護助手として養成から就労までをサポートし、シニアの健康づくりや介護人材の確保を目的としていることは、人手不足の介護業界における課題解決につながるものである。</p> <p>講座受講者を対象としたアンケート結果から、「介護助手として働きたいか」という質問に対し、「働きたい」と回答している方は6割である。実際には介護について学びたいというニーズも多く、現実的に就労することが困難な場合がある。働きたい人と学びたい人を分けて講座を開くことで、受講後の進路が導きやすくなると考えられる。</p> <p>令和4年度の就労に結びつかなかった参加者70名は、高齢化の進む社会を支えていこうという視野を広げることにつながっており、今後の受講者とのつながりも大事にしていきたい。</p> <p>本事業最終年度であった令和4年度を終え、3年間で合計24名の介護助手を就労へ導いたことは評価できる。今後の課題は、講座受講者の就労率を上げることで地域に「ちいすけさん」を増やし、ちいすけ文化を水戸に根付かせることである。地域貢献の機会の提供を継続するとともに、アクティブシニアの社会参加を促すことによって、アクティブシニア・サービス利用者・介護事業者各々にメリットをもたらす「三方よし」の仕組みを広げていきたい。これまでの3年間の経験を生かしながら、貴団体の活動目的が達成できることを期待する。</p>		

令和4年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	水戸の観光土産品付加価値創出事業		評価欄 B
協働事業者	常磐大学地域連携センター	市担当課	観光課
事業の概要	<p>本事業は、産学官が連携し、ポストコロナ時代の水戸の観光土産品に付加価値を創出するため、観光土産品の魅力あるパッケージデザイン制作に取り組み、観光土産品の魅力向上と水戸市のイメージアップを目的としている。</p> <p>令和4年度は森のシェーブル館のフロマージュ・フレのパッケージデザイン制作に取り組んだ。パッケージ試作品に関する企画会議を24回とワークショップを6回実施し、偕楽園来訪の観光客137名に対してアンケート調査を行い、情報発信を継続的に行った。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、水戸の土産品のデザインを学生主体で企画し、新しい価値が生み出される可能性を見出す企画であった。水戸のイメージアップは水戸市の大きな課題であり、学生が主体となって活動したことは意義深いものであった。</p> <p>アンケート結果に関しては、項目を多数設けることで細かい意見を捉えることができている。また、多様な意見を回収することができており、土産品開発に生かすことができると期待できる。</p> <p>一方で、令和4年度に制作したパッケージデザインの売上の推移を検証することができず、評価が難しいが、学生に地域に関わる機会を提供できたことや、24回の企画会議により試行錯誤を重ねた過程は評価できる。また、テレビ出演が事業の効果を高めたといえる。</p> <p>令和4年度で協働事業は終了したが、学生が集めたアンケート結果が今後の水戸の土産品の開発にも生かされることを期待したい。次年度の方向性は明確にされていないが、今後も若年層が主体となり、水戸の魅力的な土産品開発の一助になる企画を考え、水戸市の魅力度アップに貢献していただきたい。</p>		

令和4年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	キッズトレイルランニング大会		評価欄 B
協働事業者	株式会社ナムチェバザール	市担当課	農政課
事業の概要	<p>本事業は、トレイルランニング大会を開催し、貴重な地域資源である森林公園の自然環境をより身近なものとして、子どもたちの教育・健康増進に活用し、優れた環境を次世代へつないでいく礎を築いていくことが目的である。</p> <p>令和4年度は、水戸市森林公園にて開催し、104名の小学生が参加し、103名が完走した。市内小学校へチラシ11,000枚を配布し、市報やSNSでの広報に取り組んだ。参加エントリーはチラシ等のQRを読み取ることでエントリーフォームを送信する形式を採用し、申込管理のペーパーレス化を促進することで、環境負荷の軽減を行った。</p>		
委員会意見	<p>本事業は、トレイルランニング大会の開催を通じ、公園設備だけでなく環境資源としての大きな魅力を子どもたちへ伝え、地域資源としての魅力を広くアピールし環境マインドを醸成する事業である。</p> <p>令和4年度については、天候にも恵まれ、青空の下で子どもたちが自然の中を生き生きと走っている姿が印象的であった。非日常の体験を通じて子どもたちに成功体験をもたらし、自然を大切に思う心を育むことは意義深い。</p> <p>一方で、早く完走した子どもや保護者の表彰式までの待ち時間については検討が必要であると感じた。他の子どもたちの応援をしてイベントに関わってほしいという事業者の意向は、参加者には浸透していなかったようである。待ち時間を有効活用できるよう令和5年度の開催に生かしていただきたい。</p> <p>また、参加者の声を集めることも重要である。走り終えた子どもたちは、何を感じ、何を思ったのかを丁寧に聞き取り、ぜひ今後の事業展開に生かしてほしい。</p> <p>今後、森林公園成沢地区におけるトレイルランニング大会の価値を高めていくために、より多くの親子が参加できる手法を検討の上、事業を実施してもらいたい。</p>		

令和4年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	公園にハートいっぱいのを蒔こう		評価欄 B
協働事業者	NPO 法人 Happy リレーいろいろ	市担当課	公園緑地課
事業の概要	<p>本事業は、千波公園少年の森において、フードバンク、子ども食堂の実施、清掃活動、公園で遊ぶ子どもの見守りなどの社会貢献活動を通して、公園と地域をつなぎ、多世代交流が図れる公園づくりを目指すことを目的としている。</p> <p>令和4年度は、防災啓発活動32回、炊き出し訓練10回、フードバンク・フードロス啓発活動115回、ゴミ分別活動27回、みとちゃん朝市21回、ひとり親フードパントリー・相談支援96回等、合計177回にわたり公園活動を実施した。年間延べ1000人以上のボランティアが参加し、1日あたり約100名から1,000名が来場した。</p>		
委員会意見	<p>本事業では、千波公園少年の森において、様々な事業が行われており、貴団体の活動によって公園の安全と景観を維持しているだけでなく、子育て世帯を支援し、イベントを通じて市民の交流の場を創出している。</p> <p>本事業は、貴団体を中心となり、1年を通して継続的に活動していることは評価できる。しかし、核となる事業が不明であり、目的が分かりにくいように感じる。熱意溢れる姿勢には感心するが、活動を広げ過ぎてしまうと当初の提案から逸れてしまうため、ある程度絞ることを検討するべきである。</p> <p>千波湖畔の駐車場の課題に関して、事業報告では明言を避ける場面があった。市の協働事業であるため、市の担当者や当委員会だけでなく、関係者や市民にも説明できるようにしていただきたい。令和5年度は、協働事業最終年度を迎えるが、引き続き市協働担当課と連携しながら、報告等の事務処理も確実に遂行していただきたい。</p> <p>今後も公園の美化活動に取り組みながら、社会貢献活動を継続していただきたい。また、これまでの活動を継続しつつ、令和6年度以降も自立して事業が実施できるよう活動を発展させていただきたい。</p>		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月30日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告などについて、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、各委員の採点を合算し、評価した。また、今後事業を展開するにあたって、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見交換を行った。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×7人＝140点満点

			採点基準
A	評	価	105～140点
B	評	価	70～104点
C	評	価	35～69点
D	評	価	0～34点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企画・計画段階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実 行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評 価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見 直 し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5